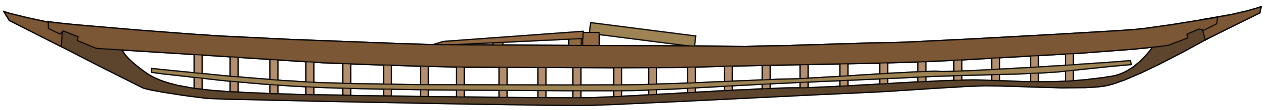
2013.12
Vol.03



CONTENTS 目次

2 Contents 目次

3 **SUPER GUTS**

8 DERMAVA PADDLER'S REPORT
伊東英一

9 河は呼んでいる
東日本ブロック 海谷一郎

10 BLOCK COMPETION
北海道・東北・東日本ブロック

12 BLOCK REPORT
西日本・南日本ブロッ

14 TOUR REPO 奥尻島ツアー
北海道ブロック 齊藤幸博

15 EVENT REPO 三陸シーカヤックマラソン
東北ブロック 戸川拓馬＆山本純史

16 EVENT REPO ICECAMP in Lake Ogawara
東日本ブロック 小松孝嘉

17 新メンバーから一言

18 QJ2012−2013 執行部から

20 QJ 第 3 回 facebook 対談

21 2013 総括
伊東英一

QJ 第 3 号 2014 年 1 月 15 日発行

発行 Qajaq JPN, http://www.qajaq.jp/
編集 / デザイン Takuma Togawa
表紙デザイン Eiichi Ito
イラスト Kazuyuki Kaiho

※本誌掲載の写真・図版・記事等の無断掲載、複製、転載を禁じます

©2013-2014 Qajaq JPN,

SUPER GUTS

Qaannat Kattuffiat vs QajaqJPN

May, 2013　Futtsu, Chiba, JAPAN

2013 年 5 月にグリーンランドから 6 名のカヤッカーが来日しました。彼らは Qaannat Kattuffiat に所属しており、我々が「総本山」と呼んでいるクラブのメンバーです。グリーンランド内はもちろんですが、海外のクラブのとりまとめも行なっており、我々 QajaqJPN も二年前にこの傘下に入れてもらいました。

彼ら Qaannat Kattuffiat のメンバーを迎えて開催となったイベントが『SUPER GUTS』です。三日間というあっという間の時間でしたが、あらためて振り返ります。

SUPER GUTS

Qaannat Kattuffiat vs QajaqJPN

May, 2013　Futtsu, Chiba, JAPAN

Discussion　ディスカッション

開催の前日に行われたQaannat Kattuffiatのメンバーとのディスカッション、一度途絶えかけた狩猟文化の復活と維持、さらには継続させる難しさ。それに対するグリーンランドを挙げて取り組む努力は並み大抵ではないだろう。文字にすると味気ないけど、初めて相対してみて感じる彼らが醸し出す雰囲気と言おうか、オーラのようなものだろうか。それを強く感じた。

精神だけでなく肉体もそうだな。強い。実際に触れて、接してみて解った。ライフルもモーターボートもない時代のような狩猟はないにしても、彼らはカヤックを操り、銛を打つ。そのためのトレーニング、子供のころからやっているというロープジムナスティックもそうだ。ロープを引っ張る力だけでなく、食い込むロープの痛みにも耐えなければならない。小さいころからハンターとして培うものは大きいだろう。

彼らに期待するものってなんだろう。そんな狩猟の文化をカヤックというものを通して伝えてほしいってことかな。日本では旅やレジャーやスポーツとして使われているカヤックのルーツをきっちりと知ったうえでカヤックに接していたい…そう思った。

天狼☆(田中敏彦)

Tuilik　チュイリック

日本国内でチュイリックと言えばネオプレンで作られたものが主流ですが、元々は海獣の革ですね。グリーンランドでは、現在も革でチュイリックを作っていますが、スキンカヤックはナイロンや布に代わっています。そこで、キャンバス生地でチュイリックを作ってみたのですが、ＱＪメンバーの松野さんや舞田さんは既に作っていました。

このコマでは、その辺の情報や、試行錯誤している防水対策や袖・顔周りの浸水対策についての話しをしました。防水に柿渋、油、シリコン、袖・顔周りの浸水にソフトスポンジ、ウレタンシート、ゴムなどなどを使ってみての効果や試して失敗した結果を惜しげもなく公開！！

途中でＱＫメンバーや講師ジェームズ氏も顔を出して、フーン、　　なのかウームなのか、ともかく関心を持って　　くれた？ようでした。

muomuo（魚住光治）

Making メイキング

SUPER GUTS に参加して、今回私は「女性のためのカヤック作り」の講座の講師を行わせて頂きました。依頼がきた時は、そんなだいそれた事できないとお断りしたのですが、熱心な説得に負け引き受けてしまいました。講師を初めて行う･･･私の話など参考になるんだろうかと不安があり悩みが解消されぬまま始まってしまいました。
製作場所は G-BASE でここまで電車で片道３時間半かけて通い１年数か月かけやっとの思いで作りあげた事、大工の知識がなくても作ってきた状況や苦労した事、その時の心情などを説明しました。終わった時は、聞いてくださった方々はどう思ったのか聞く余裕もなく真っ白になっていました（笑）。この講座は最終日だったのですが前日にチームロールに１人女性いるとかでゴレンジャーのピンク役として参加し、スタンダードロールのレクチャーも行いました。今までイベントの裏方をしていた私にとっては SUPER GUTS はてんこ盛りの思い出いっぱいの SUPER GUTS でした。

酒女（桑原真由美）

SUPER GUTS では、分解式 Qajaq 製作講義を担当した。講義時間内に組むのは難しいので、逆に分解しながら説明する作戦。ところが久しぶりに組むので、使うビスを間違ってガンネルを割ったり（速攻でエポキシで補修）、リブ前後順番を間違えて本来の形状にならなかったり。何とか組み上げ、Qajaq 製作経験者を主としたコアな数名にレクチャーすることができた。
スキンカヤックの構造、作り方を知ってもらうには、分割式は非常に有効な教材になると思う。ガンネルの継ぎ方は、ホームセンターで手に入る短尺材を継いでの製作に応用できるし、ビームの角度、ガンネルのほぞ穴との関係なども一目瞭然。
機会があれば、敢えてフォールディングと銘打ってではなく、Qajaq の作り方として製作未体験者にレクチャーし、著しく低下した Qajaq 率を増加させたいと思う。

MKⅡ（舞田仁司）

SUPER GUTS

Qaannat Kattuffiat vs QajaqJPN

May, 2013　Futtsu, Chiba, JAPAN

Rope　ロープ

日本では、まだまだその認知度が低く、経験者も少ないロープ・ジムナスティックス。
グリーンランドの大会では、レースに次ぐ人気競技のようで、ロープ競技のみに参加する人もいるようです。夏でも氷が浮く海に出ることは、心して出艇しなければならないわけで、年間を通して日ごろは陸上でトレーニングするのが一般的なのでしょう。

このコマでは、74 種類もある回り方の内、代表的なものや比較的容易な 8 種類くらいをＱＫメンバーに見本を見せてもらい、５名ほどの参加者が交代でトライ！

２本のたわんだロープを主にまたいで回るタイプと高く張ったロープを懸垂して上がって前回りをするタイプがあるのですが、いずれも体中の筋力が必要！！交代でやっても筋力が追いつかずにヘトヘト！！！

ハイロープは無理！！！！

修行が足りません！！！！！

腕立て伏せ百回！！！！！！！

muomuo（魚住光治）

for chirdren　子ども体験会

ありがたや〜。

今回、SUPER GUTS のお手伝い依頼を受けての本音です。こんな私のような者に声をかけていただけて感謝です。ロールの一つもできないのに・・・(笑)担当は初心者レクチャー。子供担当。ありがたや〜。適材？適所かと。

当日、訳も分からず言われるままに動き、方言丸出しで参加者に指導。こんなんでいいのかしらん？と、思いながら指導。参加者は初心者。多分、自分の方がこれでも少しは上かと確信と自信を持って指導。子供、親御さんの笑顔。ついてきた、おばあちゃん、おじいちゃんの笑顔。

いや〜。みんな、いい笑顔。時化ていて良い条件では無かったですが、みんな楽しんでいて喜んでいます。なんちゃって指導者としても歓喜一隅。感無量。ありがとう。

指導後には参加者から「今度はいつまたやるんですか？」のありがたいお言葉。
そして私・・・。「わからないです・・・。また、やるかも知れませんね・・・・。また、お越しください。」その程度しか答えられませんでした。すいません。
次回、また依頼があれば力になりたいと思います。こんな私でも良ければ。
また、欲を言えば時間があったら参加者に短くてもツーリングもさせてあげられれば、もっと喜ぶだろうなあ〜。と、思った次第です。

こんな自分も自称、自営業カヤックガイド「FLOP」社長（笑）！　これからも精進して参りたいと思います。

千葉達夫改め『オイ！タツオ』

All impressions 全体所感

ニコラを途中で追い出したのは間違いでした。追い出すべきじゃなかった。「不祥事」そのものが解明されてないのに、片方だけを罰するのはフェアじゃない。何のことだか分からない方には申し訳ありませんが、伊東のオフィシャルなコメントとしてここに残しておきたいので、どうかご容赦ください。

Qaannat Kattuffiat 代表の「俺たちが出て行くか、ヤツが出て行くか…だ」の一言に怖気づいてしまった自分がとても恥ずかしいです。第一、ニコラは“友人”です。セルビアからわざわざ QJ メンバーに会いに来た日のことを今でもハッキリ憶えています。「グリーンランドスタイルについて知りたい」その一心で我々にコンタクトしてくれたのです。二年前でした。そして散々“沈”しまくって帰った翌年、再び日本の地を踏んだのです。今度は自作のグリーンランド艇のシルエットを持ったフォールディングカヤックを引っ提げて。あれを見た瞬間「こいつ冷やかしじゃねーな」と感動しました。日本語も積極的に勉強しているようですし、我々とのコミュニケーションをもっと図ろうとしているのが分かりました。そして今回の SUPER GUTS。彼にとっては初めての「舞台」です。その熱心さから、少々無理強いして講師として来てもらいました。

そんな友人ひとりを信じてあげることができなくて、何が QJ 代表なのか…。確かに粗相があったかもしれない。だとしたら喧嘩両成敗で双方を責めるべきでした。こんな感じで SUPER GUTS は大団円を迎え、無事に終えたように見えますが、自分の中には大きな後悔が残るイベントとなってしまいました。ニコラというゲストを途中で欠いてしまったのは自分の責任です。本当に申し訳ありませんでした。

正直に言うと Qaannat Kattuffiat に幻滅した部分もあります。確かにディスカッション等は有意義でした。ジョン個人に至ってはその知識や技を惜しみなく教えてくれたし、人としてとても敬愛できる方だと思いました。一方で、代表はハネムーン気取り、女性カヤッカーは「ロールしたくない」。誰もウェアを持ってきてない。漕ぐ気ゼロ？そのくせニコラの不祥事に関しては証拠も無いのにほぼ一方的に責めまくる。話し合いしている中でとうとうブチ切れる瞬間が訪れ「お前ら何しに来たんだーっ！？」と怒声を上げてしまいました。同席してくれた初代代表の田中さんにはご迷惑をおかけしました。

んー…オフィシャル入りに尽力してきたこれまでの時間がとても無駄に思えました。悲しかったです。文字通りガッカリです。Qaannat Kattuffiat ってもっとスゲーんじゃなかったのかよ！？総本山ってもっと神々しい光を放っていたんじゃなかったのかよ！？

ニコラが出て行くとき、一瞬だけ自分に救いを求める表情を見せたのが今でも頭から離れません。“イベント”に負けた自分がとても惨めに思えました。おそらく「代表」としての意識はここで事切れたんです。途中放棄しなかったのは初代や副代表に対する義理です。それだけで保ってました。

んじゃ Qaannat Kattuffiat から離脱するか？

いやいや、それじゃ負けっぱなしなんです。Qaannat Kattuffiat を見返すぐらいのクラブにしてこそリベンジです。今回 Delmarva のイベントに参加して確信したことがひとつあります。QajaqUSA は Qaannat Kattuffiat の傘下にあるとは言え、事実上その立場は逆なんじゃないかと。QajaqUSA のあの精力的な活動がなければグリーンランドスタイルはここまで世界各地に広がらなかったでしょう。力関係を云々言っちゃうと、途端につまらなくなりそうですが、目指すところを見誤るよりはマシです。

先日、ヤコブ・ピーターが新代表に就任したという知らせを耳にしました。いろいろと改善されることを切に願います。どうか世界中のGカヤッカーの期待を裏切らないでいただきたい。少なくとも我々 QJ が海外へ出向くときはパドルの一本ぐらいは持参したいところです。顔を濡らしたくないからロールしませんなんてバカなことを言っちゃいけません。そんなヤツぁ、ぶっとばす！

追伸

イベント終了後、Qaannat Kattuffiat メンバーが帰国する前日の晩はさらに酷いもんでした。残ったメンバーの全員が閉口したのは言うまでもありません。ほげたさん、魚住さん、酒女ちゃん、今更ながらあのときのご協力に感謝します。当時メンバーでなかった海ちゃんもありがとうねー！

伊東英一

DELMARVA PADDLER'S RETREAT

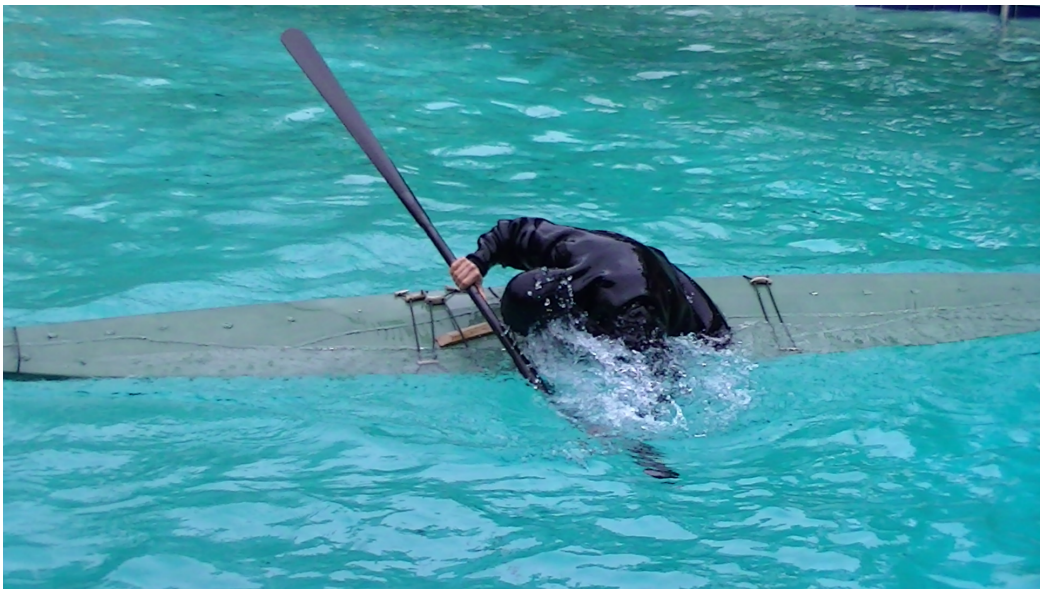
大体のレポートはQJブログ（http://g3-2nd.at.webry.info/）の方に書き尽くした感があるので、より詳しい報告についてはそちらを御覧ください。

さて、一昨年のSSTIKS、今年のDELMARVAと、QajaqUSAの二大イベントに参加したわけですが、どちらもやっぱ「すげー！」。規模も内容も世界のトップを行くGなクラブのイベントだけあります。執行部のしっかりした体制。そこをさらに細分化すると、個々のメンバーにおける経験値の高さがあり、それは「時間」という土台に乗っかっているんですな。継続ですよ、継続。「同じことの繰り返し」と思いつつも続けていくことが、個人のスキルを上げ、それがそのままクラブの質に直結します。今回QajaqUSAの凄さを改めて目の当たりし、QJを卑下するどころか、この先の可能性に大きな期待感を持つことができました。QJもいつかQajaqUSAを凌駕するクラブになれるでしょう。根拠？…んー、んじゃ、G-styleを始めた当初を思い浮かべてみてください。イベントの企画・運営はGreenlandersが担っていました。語弊がありますが、QajaqJPNのメンバー（特に古株のみなさん）は「お客さん」という立ち位置だったハズです。それが今年のSUPER GUTSでは当時の「お客さん」が講師を務めました。それ以外にも新たな顔がたくさんありましたよね。おそらく、これまでやってきた内容についてはそんなに大差ないでしょう。回って、作って、ぶら下がって、たまに投げて…せいぜい、こんな感じです（笑）。でもでもでも、グレードは着実に上がっています。コレですよ、コレ。続けましょう。続けていけるような環境をみんなで作っていきましょ。そうすればQJの未来は安泰です。この12月で任期満了を迎え、退任します。しかし、それは「QJの牽引から退く」という意味とはイコールではありません。次の総代表をバックアップしつつ、さらにQJの知名度が上がるよう、賛同者をひとりでも多く迎えられるよう尽力したいと思っています。

ちょっと横道に逸れてしまいましたが、DELMARVAはそういう気持ちを深く深く植えつけてくれたイベントでした。メシは最悪だったけど、QJの行く先にある“光”を見せてくれたから許す！（笑）

最後はオマケ。“ストーム”ネタで恐縮ですが、ダブサイドがデルマーバで見せてくれたストームロールです。スイープ側のブレードの長さ（差し込み具合）にご注目。こんな新しい遊びもイベントの中から生まれてくるんですね。グリーンランドスタイルを拡充しつつ、クラブの質を確認しつつ、でもやっぱり遊び心を忘れない…素敵じゃないですか。

伊東英一



河　は　呼　ん　で　い　る

東日本ブロック：海谷一郎

ユーコン河という河がある。
カナダ北西部から流れ出し、アラスカを東西に貫きベーリング海にそそぐ全長 3700 キロあまりの大河である。開高健はこの河を当字で「雄褝河」としたと記憶しているが、ネイティブ達の言葉でもユーコンとは、偉大なる河という意味だ。僕はこの河を二夏、のべ四ヶ月かけて約 3000 キロをカヤックで旅した。

どこからどこまで下れるか。

カナダ領、ユーコン準州の州都ホワイトホースからアラスカのベーリング海手前のエモナックまでの約 3000 キロ。そのうちカナダ側のホワイトホース～ドーソン間の八〇〇キロにはレンタルカヌーやガイドサービスも充実しており誰でも下れる。日本人女性経営のアウトフィッターもある。

気候

陽が出ていればＴシャツでいられるが、雨が降ったり夜ともなれば関東の冬並みには寒い。白夜（夏至の前後一ヶ月くらい）がある。

宿泊

全てキャンプ。キャンプ場があるところはカナダ側のみと考えてよい。ホテルはほとんどない。流域の村でも河原ならキャンプ出来る。村人からスモークサーモンやムース（ヘラジカ）の肉をもらったり、お茶に呼ばれたり、そのまま飯をごちそうになったり、泊まらせてもらったり、マリファナや密造酒、エロＤＶＤをみせてもらうなど楽しいハプニング盛りだくさん。村と村の間は基本的に完全な無人。ときおりフィッシュ・キャンプ（狩猟小屋）があってそこを訪ねるのも楽しい。

キャンプの食料

ほぼ全ての街、村でインスタントラーメン、醤油、米（インディカではなくジャポニカ）が手に入る。レストランはカナダ側はあるが、アラスカ側にはないところが普通。

言語

完全なファーストネイションの村でも英語が通じる。

交通

カナダ側ならばバス、旅客機がある。
アラスカ側は道がないところがほとんどなので郵便飛行機（セスナ）に乗って行き来することが多い。

自然

有史以前から変わらないであろう自然が味わいほうだい。ただし、剥き出しの野生なので覚悟すること。

諸注意

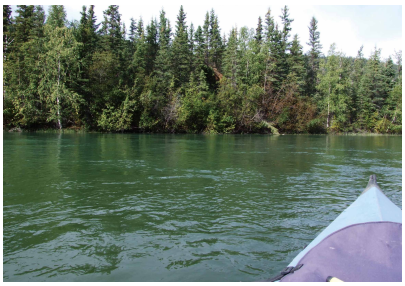
熊との接触を避けるためにテント内での煮炊き、食事は厳禁。食料は防水バックに入れてテントから 100 メートル程度は離しておく。
村によっては禁酒（ドライという）のところがあって持ち込みも禁止。バレないように。
蚊は殺人的な多さである。蚊取り線香や虫除け（オフという）が現地で購入できるので忘れないように。

最後に

二人で、または夫婦で行く時は、何日も二人っきりで相手と向き合うことになることを覚悟しておくこと。

↑仲良くなった村人と。このあと、誕生日パーティーに呼ばれて楽しいひと時を過ごした。

↑森が豊なのでこんな大木も流木として流れてくる。



↑上流では綺麗な水のユーコンだが中流からは泥水に変わる。清水の確保か泥水を飲める太い神経が必要になる。

BLOCK COMPETETION

北海道ブロックローカルコンペ

北海道ブロックロールコンペは８月４日にメンバー８人中、７人が集まり行いました。

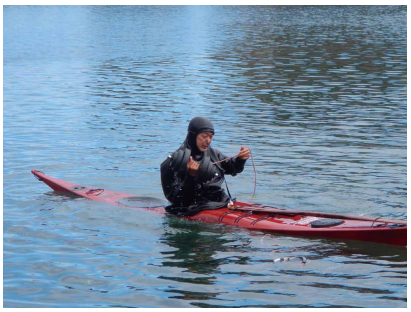
ロールコンペは私以外全員が初めてという事で、規定３種目（サイドスカーリング、スタンダード、ストーム）と選択５種目と短めにし、タイム１人、ジャッジ２名の設定です。

結果は以下の通りで、やっぱり齊藤さん１位！で、胡桃ちゃんも頑張りました。９月末に教えたエルボーもあっさり出来ちゃうので、10 月に開催していたら自分と変わらない点数になっていたでしょう。来年の北海道 GUTS が楽しみです。

仲間内だけのコンペなのに出来る物が出来なかったり、間違って違う事しちゃったりと緊張していましたが、良い経験になったと思います。

これを機に、右だけしかできない人は左を！とかストームを完成させたい！と盛り上がり練習に励むようになり、益々北海道ブロックは濃くなって行くでしょう！　（三上）

RESULTS	
1 位	齊藤
2 位	三上
3 位	齊藤胡桃
4 位	本間
5 位	前田
6 位	横堀
棄権	土井



東北ブロックローカルコンペ

東北は９月 28 日（土）に開催しました！　私戸川以外のメンバーはコンペ初挑戦！？　ジャッジなんて経験もないので、戸川のデモのもとでジャッジング練習から始まり、ロール練習を経てのコンペとなりました。

相馬「青空広がる陸奥湾で、津軽半島、下北半島はたまた北海道まで見渡せるロケーションのもと、参加者は少なかったけど有意義な時間の中、和気あいあいと楽しめました」

オイ！タツオ「今回、初めて私の地元大会でしたが、人数は少なめでも内容はしっかりしていて大変有意義だったと思います。遠くからは佐藤夫妻も山形からいらしてくれて感謝感激でした。日本酒の差し入れまで頂き、夜の部も大盛況！ありがとうございました。いや～楽しかった。
機会がありましたらまた、開催できればと思います。」

坂下「その日は、秋の空と夏の海が居合わせたような最良のコンディションでした。コンペにもかかわらず、沖へ漕ぎだしたくなったのは私だけではないはず。でもしっかりやりました。仲間とともに挑戦することの幸せを感じた一日でした」・・・こんな感想でした！　（戸川）

RESULTS	
1 位	戸川
2 位	坂下
3 位	矢内
4 位	佐藤
棄権	タツオ
	相馬

東日本ブロックローカルコンペ

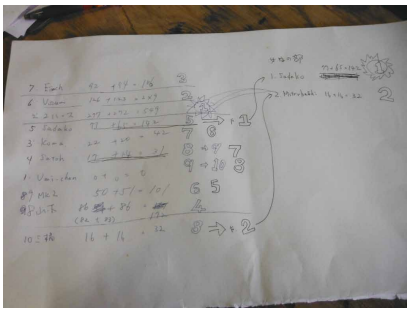
2013 年は SUPER GUTS というビッグイベントの大嵐もあって、恒例の GUTS コンペは来年に持ち越しって事でコンペはブロック大会のみと相成りました。東日本ブロックでは、11 月に一度参集しましたが、これまた大嵐のおかげで宴会のみでコンペおあずけ。12 月 7 日にやっとこさ開催に漕ぎつけました。（やっぱりイベントも漕ぐんだ・・・）延期が幸い？して、競技参加者・見学者もこれまでにない大勢のブロック大会となりました。

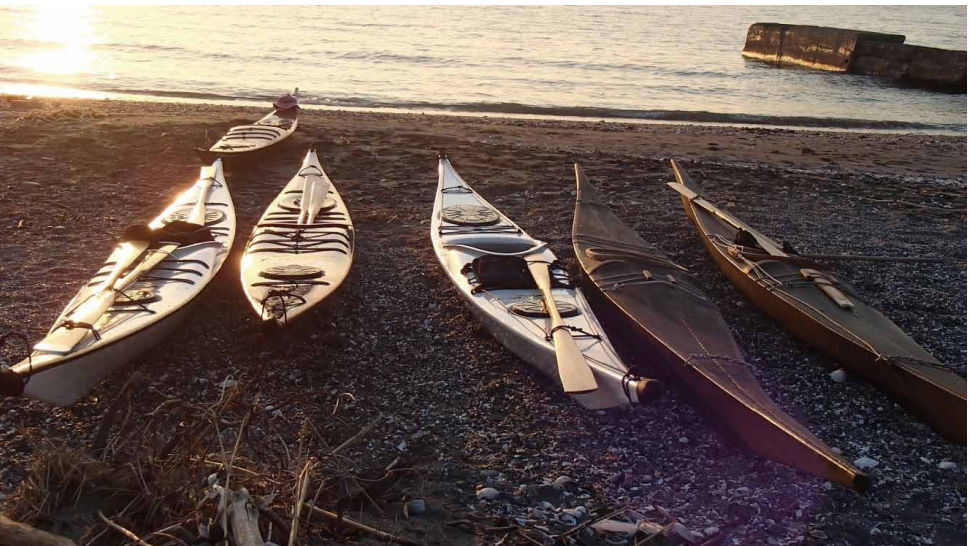
なんと言っても、ユハースさん・さだこさんご夫妻でのコンペ男女制覇がビッグニュースなんですが、実は 2012 年の東日本ブロック大会「コレがオレの GUTS だ！」でも優勝のお二人なんですね。この牙城を崩すのは誰か！目が離せませんよっ！！

多数の QJ メンバー入りも華を添えました。更に、コンペ初参加の shin さん・アキラさん・海ちゃん・やっくん、初めての参加とは思えない果敢なロールに拍手喝采！　（魚住）

RESULTS	
男性部門	
1 位	ユハース
2 位	魚住
3 位	伊東
4 位	山下
5 位	舞田
6 位	小松
7 位	佐藤
8 位	海谷

女性部門	
1 位	城田
2 位	三橋





BLOCK REPORT

西日本ブロック

西日本ブロック：たむらひろし

2012 年 11 月の沖縄 GUTS に参加する前からドイツ人のフライヤーさんが持っているような、「持ち運び可能なスキンカヤック」を作りたいと思う気持ちがありました。が・・・！色々な事で難しいと諦めていました。沖縄大会参加時に 2 艇の持ち運び可能なスキンカヤックを拝見させて頂く事が出来ました。なんとラッキーことでしょう。「魚住さん・舞田さん、有難う御座いました。」

ひょっとしたら自分でも作れるのでは？と思い考え始めました。

2012 年 11 月末から、ぼちぼちイメージし設計と材料集めの計画を始めました。計画案は、艇の中央から 2 分割方式、アルミのコの字角材で接続固定、タボを外せる様に。重量・全長・幅等を考慮しエスキモーロールも楽にこなせるようにデッキを低くしよう。

※全長：車に合わせ 4m50ｃｍ前後
※幅長：少し安定性も必要かな？（52 ～ 53ｃｍ）　重量：15 キロ前後
※喫水デッキ高：１手幅位　足・腰・マシック・フットブレスの位置合わせ
※浸水対策：スキンが突発的に破れたときに備えラップ巻きを実施。

約２ヶ月このログハウス横で、安全に？乗れるまでに製作する事が出来ました。幸いにも「SUPEUGUTS 発表用「カヤックに関する画像に限定ね」伊東代表に取り上げて戴きました。
サイズ：Ｌ4500mm×Ｗ520mm×Ｈ320mm　特徴：少しかわったスキンカヤックです。
実際は、持ち運び分解・組立・持ち帰り分解には、大変な労力と時間が掛かるカヤック。

◆現在、所有カヤックコレクション　発表！！！

【伊東さん製作８号艇】5450mm×500mm
速度スムーズ・ロール性能良い

【リバー：ジャクソン 2FUN】
瀬遊び＋クラス４くらいをカバー可能

【Ｐ＆Ｈ社製　ベラ　所有艇は上面薄い緑色】
全長４７７0mm　×５４０mm

【WATER FIELD KAYAKS　Qaanaaq 512SS】
最近、我が家に来たいい相棒。」

南日本ブロック

南日本ブロック：加藤　朗

ロール不毛の地である北部九州ですが、昨年後半からロールを覚えたいという人が増えてきたような気もします。昨年の晩秋からシーカヤックを始めた青年がロールに興味を持ち、GW にちょっと教えたらわずか 2 時間半で習得してしまったり、夏に急遽ロールスクールを開催したところ、十人以上集まって教えきれなくなってしまう事態も発生しました。

また、海面ハウスの中心的な存在の一人が最近カナックトランザムを購入しました。こういったことがきっかけになって普通のカヤッカーも G スタイルやロールに興味を持ってくれれば良いな、と思います。

…そういえば、初期型のトランザムでは軽量の私ではハンドロールできませんでしたが、最新型のトランザム（SS ではなく大柄な人向けのハイデッキバージョンです。）だと簡単に決まります。トランザムのロール性能は上がっているようです。

今のトランザムは、ツーリングにも使えてロール性能も非常に高い万能型のシーカヤックになっていると思います。ロール好きだけどツーリングもしたいという人にはお勧めの一艇です。

奥尻島
trip to the Okushiri island
ツアー

TOUR REPO

奥尻島にカヤックで渡ろうと計画し始めたのは、2012 年の秋頃だったはずです。
それから約半年間、あーでもない　こーでもないと、三上氏と計画を練っていました。

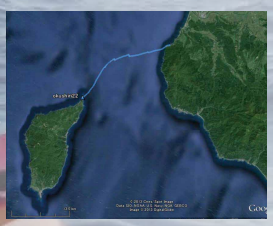
離島への横断は長距離を漕ぐことに加え完全に陸地から離れてしまうので、シーカヤックの経験が少ない
私にとってはかなり不安でしたので横断予定日の二ヶ月程前から週一回の漕ぎ込みを始め，漕ぐだけなら、なんとか 30ｋｍ程度なら漕ぎきる自信を付けました。

横断距離は地図上の最短距離で約 18ｋｍで海峡横断の距離としては短い方でしょうか？

最終的に決定したルートは直線で約 22ｋｍ。横断メンバーは北海道ブロックより三上、齊藤、関東ブロックよ小松さんの計３名そして三上、齊藤の家族がサポートメンバーとなりフェリーで奥尻島へ先回り。

2013 年 7 月 13 日三上、小松はカナックトランザム SS　私はカナック 512SS に乗り込み、せたな町を 9:00 にスタートしました。天候にも恵まれスタート時点では、ほぼ無風のベタ凪で前半はかなりいいペース、3 人でうねりに乗って遊びながらこんなペースなら３時間で着いちゃうよーなんて言う程でした、中盤もいい感じでおやつを食べたりしながら距離を伸ばしましたが、後半からはサイドからの風による風見効果に悩ませれ、結構つらい思いをしました。ラスト 5ｋｍ位が一番辛かったかな？最後は、なんかやっと着いたという気持ちと、あー終わっちゃうって言う気持ちで、奥尻には、16:00 着となり７時間の横断でした。実際に漕いだ距離は風と潮流とルートミスの影響で 30ｋｍ弱になりました。

上陸後は歩くこともままならなかったのですがジップロックに入れた 1,000 円札を握りしめて近くの食堂まで這うように行き３人で飲んだ生ビールはまさに至福の味でした。そして晩餐はウニ、ウニ、ウニともう最高でした。



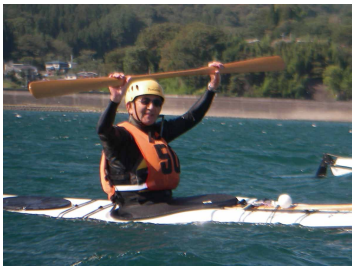
奥尻島ではウニは飲み物です（笑）。
2014 年は利尻島にウニ飲みに行きますよ‼　参加者は随時募集中です。

北海道ブロック：齊藤幸博

EVENT REPO

三陸シーカヤックマラソン in 宮古

sanrikuseakayak marathon in MIYAKO 2013.10.13~14



東日本大震災から 2 年。今年も『三陸シーカヤックマラソン in 宮古』が無事開催された。昨年、一昨年とツーリングのみで終わっていたが、今年は 5km、10km の部でマラソン競技が行われた。

震災以降、三陸に足を運ぶことはとても勇気がいる。私の住む青森・八戸から数時間の場所ではあるが、実際になかなか出かける機会がないのが事実。あれからどれだけ復興が進んだのか。いまでは、なかなかメディアに取り上げられることも少ない被災地の現在。一向に進まない復興の現在を目の当たりするであろうから・・・。

『三陸シーカヤックマラソン in 宮古』の開催される会場は宮古マリーナ。リアス式海岸の宮古湾を活用した東北有数のとても立派なマリーナがそこにはあった。地元高校のヨット部は全国レベルだ。そのマリーナも震災での津波の影響で防波堤は壊れ、岸壁もえぐられて、艇庫も瓦礫とかしていた。2011 年の大会では参加者全員でマリーナ周辺のゴミ拾いというか瓦礫除去の作業を行い、津波被災沿岸をツーリングをして、黙祷をおこなった。

あれから 2 年。宮古マリーナはやっと工事がはじまっていた。岸壁の補修工事がおこなわれ、工事車両もひっきりなしにやってくる。大会駐車場の脇には工事現場事務所。工事作業をしているすぐ脇でカヤックの積み下ろしや着替えをしているのに、少々、うしろめたさも感じてしまう。とはいえ、大会実行委員は宮古で暮らす有志も皆さん、さらにボランティアで地元高校生や近所のおばちゃんたちまでも関わってくれていて、私たち参加者を歓迎してくれる。うしろめたさは、すぐに薄れ、これはしっかり楽しまなければという思いのほうが勝ってくる。同じ気持ちになった参加者は私だけではないはず。もちろん、しっかりと楽しませてもらった！

ゆっくりと復興は進んでいる。その中で、中止させずに続いているこの大会。新しく始めることよりも、継続していくことの難しさは私自身もわかっているつもりだ。そうして開催をしてきているこの『三陸シーカヤックマラソン in 宮古』。

私たちカヤッカーが、手っ取り早くできる復興への力は、被災地へ足を運び、現在をしっかりと自分の目で見ること。そして、伝えること。そしてそこにお金を落としてくること。まずはそこからと思う。

シーカヤックのイベントがせっかく開催されているのだから、みんなで盛り上げていければと思う。

東北ブロック：リバラン戸川

戸川師匠に連行され『三陸シーカヤックマラソン in 宮古』へ初参戦！　宮古では Koma さんやマコチンも合流し QJ 魂を見せつけるべく？　G パドルで 10 キロの部へチャレンジ！

大会は強風の為、宮古湾片岸往復にコース変更され残念でしたが、向い風・追い風に翻弄されまくり、スプーンパドルが大勢の中で QJ メンバーは G パドルで必死に上位を目指し頑張りました。が、結果は・・・(笑) それでも Koma さんのスピードには、若年の戸川師匠や私は全く追いつけず、競技そっちのけ『荒れ海ツアー』とシケコミました。

ゴール地点では Koma さん・戸川師匠はカナックを駆り激しくロールデモを繰り返し、大会関係者から要救助者と勘違いされる一幕も (笑)　私以外の方々が QJ ウイルスをしっかりバラ撒きましたので、来年はパンデミックし QJ 信者の大会に変わっていることでしょう。

来年の目標は Koma さんと並走しゴールでロールします !!

東北ブロック：山本（ラリポン）

『ICE CAMP』って一体なんなの？　何するの？　聞きなれないが惹かれる名前だ！これは、八戸市のリバランさんが主催するイベントなのです。

ＪＲネット予約で得た新幹線の格安切符で魚住さんと２月 23 日の昼前に八戸駅に降り立った。

陽射しは有ったが寒い、駅前の歩道もやたら滑る、『あぁ、北国へ来たなぁ！』が実感だった。間もなく戸川さんが車で迎えに来てくれて会場の小川原湖へ急ぐ。途中のコンビ二で北海道の三上さん、齊藤さんと合流し更に北へ、三沢市に入ると辺りは一面の銀世界、曇天の湖畔では雪交じりの強風に迎えられた。湖面は果てしなく雪景色、結氷している！　湖面と空の境が無い、おまけにこの風と雪！

『うっへぇ、ここでロール？とんでもない。』

今日の練習は見学と決めて車から降りた。と、北海道のお二人はもう着替えを済ませてカナックが二艇道端の雪に浮かんでいた。戸川さんも魚住さんも相馬さんも黙々と準備を済ませた。

『こんな風雪の中でやるの？』

と聞くのさえ憚られる、さすが QajaqJPN の面々だ。狂人は我々だけではない、ウィンドサーファーも一人居た。

そんな時に PFD とスプレーカバーを着けた若い娘さんが現れ出艇した。

『老いても男、そんじゃ、やるしかない！』

と思い直しドライスーツにチュイリックを重ねてしぶしぶ湖畔に降りた。

北海道のお二人を始め皆さんはグルグル、バシャバシャと良く回るまわる。覚悟を決めて着替えたのなら乗らなきゃと雪の降る中カナックを借りて乗ってみた。ロールもしてみたが水は０℃なのだろうが思いのほか冷たくは感じなかった。

『やってみるもんだ！』

を実感した、ほどよい快感でもあった。湖畔には温泉がある、冷えた身体を充分に暖めてからロッジに戻ってその夜の懇親会は始まった。

外は風も止み夕陽が銀世界の湖に沈む、絶景だ！

ラムの生肉、ウサギ汁などなど逸品、珍品の肴に上質な酒、・・・もう言う事はない。地元の方々も加わりいつ果てるともない歓談が続いた。

翌朝の目覚めは爽やかだった、しかし風と雪はより激しく唸っていた。

北海道の二人が昨日の出艇場所の様子を伝えてくれた、とてもやれる状況では無いとの判断で本番のロールコンペは止む無く中止となった。

しかし、風雪のなか結氷した湖でのカヤックロールは未曾有の体感、貴重な経験になった。

ここまで導いてくれた仲間の皆さんに感謝しつつ、夕暮れの新幹線の客になった。

koma.(小松孝嘉)

ICE CAMP in Lake Ogawara vol.02

2013.2.23~24

私は、小松さんに紹介され今年５月実施の SUPER GUTS（G パドル製作）に夫婦で参加した。そのとき戸川さんにお誘いを受け（騙されて）QajaqJPN へ加入した、成人式を２回と更に賞味期限も数年経過した山形県鶴岡市在住のヘナチョコカヤッカーです。

入会を機に、野辺地ブロックコンペ、十和田湖紅葉カヤックツアーと、楽しいイベントに参加させていただき、新たな仲間を得益々カヤックにはまっています。今後ともよろしくお願いいたします。

佐藤　明

すべての始まりは SUPER GUTS!!
人生初のロール講習では衝撃を受け大興奮！
グリーンランドスタイルは新鮮、刺激的！
　そして、惚れちゃいました！　スキンカヤックの美しさに！　自分でスキンカヤックを作って乗りこなせたらどんなに素敵かしら？！そんな日が来るのを夢見て、楽しみながら作っていこうと思います。

やっくん　こと　みつはしやすこ

昨日は子どもともどもありがとうございました。初めてグリーンランドスタイルに触れて、とても興味深く感じてます。自己紹介としては、出版社勤務後、今は看護師がメインの仕事をしてます。今年、葉山から千葉県の御宿に波を求めて引越し、現在はサーフカヤックをメインに楽しんでます。グリーンランドカヤッカーの仲間入りもできたらいいなー。今回、長女もグリーンランドに興味を持ったみたいで、北方民族資料館のホームページをみたりしてます。

次女は「ドンさん（伊東さん）とはやく遊びたい」と、次回訪問を楽しみにしてます。よろしくお願いします。

芳地直美

MESSAGE from QJ NEW MEMBER

新メンバーから一言

今年度も新メンバーがたくさん加わりました！

※コメントをいただいた方のみ掲載しています。ほかにも NEW メンバーはいっぱいです（笑）

「G パってナニ？ロールできないさ」ただ直感で面白そうという理由で参加した SUPER GUTS。想像をはるかに凌ぐ刺激に興奮し夜空を見上げた 5 月…。あれから半年、私は今、東京湾フェリーの中。激しい G 菌に侵されながら寒さにはめっぽう弱いポンコツ G 好きに成長している。

案の定、初の東日本ロールコンペは棄権。「これでいいのか？これでいいのダ」と自問自答する 2014 年の冬。

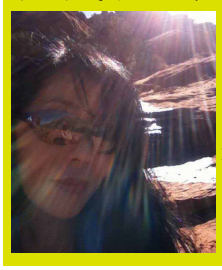
木村ケイ（kei hajama）

QJ のみなさん、こんにちは。茨城在住の博多と申します。相変わらず休日のタイミングが合わずなかなかイベントなどに参加できませんが、地元で地味～に「G スタイル宣伝普及活動」・・・（コソ連）に励んでおります。画像はありませんが、アカウント名「hiroaki hakata」で YouTube に動画を少しだけ上げてありますので、暇な時にでも覗いてみてください。G スタイル駆け出しのヒヨっ子ですが、今後ともよろしくお願いします。博多　弘明

初めましての方もそうでない方も、宜しくお願い致します、海谷一郎（うみたにいちろう、と読みます）で御座います。変態紳士と自称しております。変態ですが無害です、たぶん。変態ぶりはいずれ明らかに・・・。

海谷一郎

バイクで鍛えたバランス？をいかしてカヤックもマイペースで上達できれば、と思っています！海のそばで育ったので、大好きな海にカヤックで出るとワクワクします！目標はカヤックでサーフィンできることと、いろいろな海岸をツーリングしたいと思っています。ロールの練習は最近やっとはじめましたが焦らず、楽しんでいます



Mo Ohkubo

私は 6 ヶ月ほど前、グリーンランドスタイルのカヤックについて学び始めました。リサーチの途中、Facebook で QajaqJPN を見つけました。グリーンランドスタイルのイベントや、G- パドルについて、伊東さんに連絡しました。伊東さんはとても協力的で、ご親切にして頂きました。より多くのメンバーにお会いしたかったこともあり、東日本ブロック・ローカルコンペに合わせて、大阪から富津市に向かいました。そこでお会いした方々はみなさんとてもフレンドリーで、知識豊富でした！大変心地よく感じました。その時、私は QajaqJPN にメンバーとして参加することを決めました。このような、フレンドリーで知識豊富な上、私のような初心者に知識を共有し、指導して下さる方々に出会えることは、稀だと思います。これから何年にもわたって、QajaqJPN のメンバーから多くを学び、絆を深めることを楽しみにしています！　matthew_rohwer

2012－2013

執行部から

■代表 4 年目の 2013 年。悠々自適に過ごそうかと思いきや、そうは問屋が卸さない。なんと Qaannat Kattuffiat メンバーの来日。まぁ、あっちでもこっちでも書いたんで、改めてここに記載することもないですが、QJ も大きくなったものです (笑)。奇しくもデルマーバではその道のりを振り返るプレゼン。つくづく「思えば遠くに来たもんだ」でした。カヤックで岸から離れどんどん沖へ向かうと不安な気持ちが募りますが、ある距離を過ぎた頃からフッ切れます。「ここから戻っても（リスクは）一緒」みたいな。QJ もそんな距離まで来たんじゃないですかね。もう後戻りはできないし、する必要もない。このままどんどん突き進むしかないでしょう。10 年でここまで来ました。あと 10 年でどこまで行けるのでしょうね。とても楽しみです。そんなわけで、今年も充実していました。トータル的にとても恵まれた「代表」だったと思います。みなさんのご協力のお陰です。どうもありがとうございました。

代表：伊東英一

■副代表としての 2 年、そして 2012 年途中からの東北ブロック代表の兼任となりました。副代表というポジションは、率直に言うとなかなか表現のしづらい立ち位置でした。ブロック代表のほうが、分かりやすいというかやりやすいもののような気がします。さて、副代表として役に立てたのかどうか不安でなりません。伊東代表のリーダーシップのもとサポートがしっかりとできていたのか、いささか不安になります。結果としてみれば、QJ にとって弾みとなる年度になったことと思います。その期間に執行部として携わらせていただけたことに感謝いたします。ありがとうございました。

副代表兼東北ブロック代表：戸川拓馬

■SUPER GUTS という大きなイベントに深く関われたことに感謝です。そのイベントから新たな QJ メンバーが生まれたり、カヤッカー繋がりが広がったりと、ワクワクが脈々と続いている。本家の Qaannat Kattuffiat を身近に感じられたり、海外のグリーンランドスタイルつながりが広がったのも大きな収穫。伊東代表のおかげですね。まだまだ国内、海外問わずにＧ菌が広がっていくな～と感じた１年でした。

会計：魚住光治

■2013 年振り返ると、前半は ICE CAMP(リバラン主催) やら SUPERGUTS のマワレンジャーまで「濃い～」内容でしたが、『北海道 GUTS』が延期に決まってからはロール練習をしない年になってしまった感です。始めてから一番練習しない年になってしまいました。それでも月一くらいでメンバーに声かけると３～４人は集まり練習でき、メンバーも増えて、ブロックとしては少しずつレベルが上がってきたと思います。特に 12 月 15 日に吹雪いて海も大荒れだというのに、美国まで５人も集ってくれたのには感謝です！最初は 1 人で始め、そして齊藤さんが増えて２人での練習が多かったですが、こんなに増えたのは嬉しかったです。ホント！ドライスーツさえ着ていれば、皆さんが思っているよりも北海道の海水は冷たくありません。ロールしていれば汗だくになる程で、逆に陸上で受ける風の方が寒く感じます。北海道 GUTS は冬に開催したいくらいです（笑）

北海道ブロック代表：三上　力

■わけあって、東日本ブロック代表ジェフリーの代打です (笑)。
今年は新メンバー続出でした。ハンちゃん、神谷さん、森田さん、まんぞうさん、博多さん、さだこさん、大介くん、ちゅう石川、MO さん、大上さん、れんじさん、Kei さん、やっくん、海ちゃん、Shin さん、Nobert さん、Emoke さん、直美さん…とまぁ、こんなに東日本ブロックに入ってくれました。現在、東日本ブロックだけで 40 名チョイになります。お陰様で「ローカルコンペ」も盛り上がりました。
クラブが出来て 10 年ですか。どっかで飽和状態になるかと思いきや、こうやって新人さんが増え続けるのはありがたいことです。G 菌が順調に拡散しているんでしょうね。どういう活動が菌の蔓延に効果的か？「練習」でしょう。イベント等も効き目はありますが、コスパを考えると「構え」が必要かもしれません。個々が自主的に練習することで、あちこちに即席で露出できます。これが一番効くんですな (笑)。頑張りましょ。
東日本ブロック代表：田中　望（代打：伊東英一）

■恒例になった kayak jamboree 企画。今年も三重県で行われました。ここのフィールドは緑豊かな山からいきなり海抜 0 の熊野灘という景色。これは全国から見てもなかなかの見応えだと思います。漕いで、釣りして、潜って、とにか一日があっという間。今回 jamboree のスタート地点となった銚子川はダムの無い川で日本トップクラスの透明度です。ゆらゆら帯と呼ばれる汽水域は海と川の生き物が混じりあい二層に見事別れた水の世界は童心に戻り時間を忘れる事間違いなしです。海に出れば食べ物に困る事のないくらいの魚影の濃さです。イベントの日も様々な種の海の恵みを頂きました。僕も個人的によく行く場でカヤックのみならず遊びつくします。ここ最近では高速道路も随分と伸びアクセスも容易になりました。是非とも足をお運びください。

おっと忘れてはいけない今年で琵琶湖シーカヤックマラソンファイナルとなりました。QJ にもゆかりのあるメンバーも裏方としてバックアップしてきたイベントでした。今年は FOX さん (西)、あったん (南) と一緒にレースしました。僕はというと漕がなさすぎたのか散々でした (笑それでも色んな仲間と漕げる事が嬉しく楽しかったです。またどこかのフィールドでお会いしましょう！
琵琶湖スタッフの皆様ご苦労様でした。ありがとうございます。
西日本ブロック代表：柴田直孝

■昨年の 2012 沖縄 GUTS を終えてからずいぶん長い間真っ白になってましたが、SuperGUTS が近づくにつれてようやく G 界に復帰してきました。当初は沖縄から 2 名参加予定でしたがご事情により 1 名のみとなったので、酒女は沖縄代表として集中特訓、甲斐あって、沖縄初（？）のエルボロールをゲットして栄えあるマワレンジャー入りとなりました。

7 月には、QJFaceBook 経由で、スペインから Fernando さんご夫妻が G-Base を経て来沖。南城市奥武島で、沖縄 QJ 総メンバーでショートツーリングの後、ロール練習となりました。Fernando さんは、G-Base のお土産のノルサック使ってのノルサックロール、ハンドロールと次々ゲット。昨年の沖縄 GUTS に参加してくれた Chuck さんは 9 月に来沖、残念ながら合流できませんでしたが、G は今年も万国津梁でした。

南日本ブロック代表：桑原寛志

始めましょう

やりましょう！

んだば、今年一年をザックリ振り返りましょうか。

スーパーガッツでしょ

でしょ！

んだ

グリーンランドから６名！

やばかった

TIU と知り合えて良かった。ハンターと。

ジョンは最高

青いスタッフジャージカッケーかった

はいっていけなくて２杯め頼んじゃった (>_<)

代表がヤコブ・ピーターになったね。

ボートと呼ぶな、は名言。

今度、ジョンひとりだけ呼ぼう (笑)

ヤコピーもいいやつでした。Qajaq 愛してる。

メンバー貼ります

利久にいます。

僕が思うに肉が足りなかったと思う。彼らは肉食動物だからなぁ

やっぱり入れてない？

ジョンの狩りのときのパドリングの話は迫力があったですよ・・。

酒女さん、入ってる入ってる

最後の晩、彼らがいつまでも寝なかったのはハラペコだったからじゃないか。その気持ちを察してやれなかったことは反省してます

なるほど。

遅れました m(._.)m　なんでもいいけど、冬の北海道でロールしましょうね！！ 全員変態で！！２月にお待ちしてます。

いやいや、それにしてもアレは程度が過ぎてたよ。

まじで？今なんの会話になってるの？

変態の話。

アバタックの変わりにブイを使うこと、目だたぬように白いビニール袋に入れるという話がリアルでした。

アバタックビニールはへ？

酒女、仙台から？　三蔵は？

うん

グリーンランド行きたいね

行きたい

ぜひ

グリーンランドを旅してみたいなー

行きたいけどかんたんじゃないね！

なんぼで行ける

寒いから、いやだ！

45 万ぐらいかな

45 は厳しいい

片道切符なら半額だ”！

行ったきり

兎も角、来年は Qajaq 製作者、チュイリック製作者が増えそうで何より（話の流れは無視してすません）

向こうで狩りして稼ぐ！

いや向こうで働く

そうだね＞Mk2

はい、次のお題は？

グリーンランド語というかカラリート言語を学びたい、学べる何かを作れれば

結局だれがグリーンランドに行くことなったの？

グリーンランド行きはお金も時間もかかる。メンバーをグリーンランドへ送るためには、いまの体制では難しいでしょ。クラブでバックアップできるような仕組みが必要だと思う。QajaqUSA はそこに注力した活動をしっかり確立してるんだよなー。

クラブから一部支援とか

Qaannat Kattuffiat への協力という意味もあるしね。

至れり尽くせりの必要はない

至れり尽せりは確かに必要ないけど、QJ から送りこむ、QJ 代表として行ってもらうなら、何かしらの支援はあってもいいと思う。

代表していってもらうなら支援は必要に同意

ナオさん、坂口さん、齊藤さん…マリギアックとやりあえるメンバーがいまいるのだから、何とか送り込みたい。個人的な願望だけどね。みんな歳とる前に (笑)

まにあった！けど読んでるうちに終わりかな

俺はロールとロープを頑張ります

んじゃ行ってもらおう！(笑)

決まり？

こっそり、潜る感じで失礼してますｗ

まっちゃーん

色々やってきたけど、まだ“井戸”から一歩も出てないような気がする。

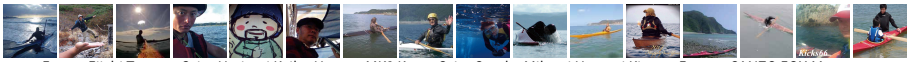
2014 は派遣メインテーマで？

Qajaq 作れ！と来年もグダグダ言わせて頂きます。決定的に足りない。

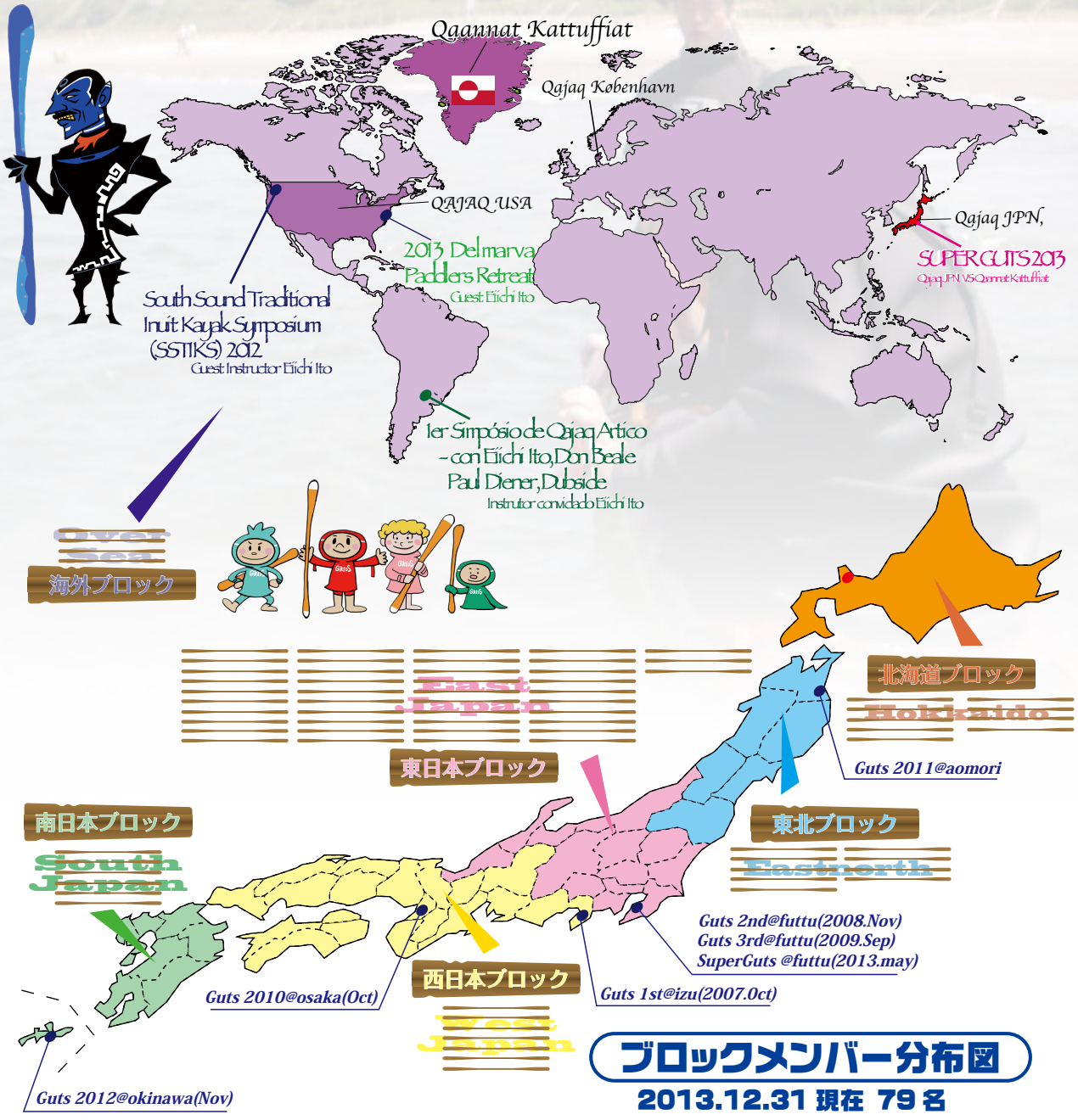
とりあえず一旦締めて、このあとはフリータイムで。

お疲れさまでしたー！佳いお年をお迎えください。

このあともまだまだ、だらだらと続いたのでした。。



Entory:Eiichi,Togawa,Saito,Umitani,Kaiho,Hogeta,MK2,Koma,Saito,Sasuke,Mikami,Uozumi,Kimura,Fuyuna,SANZO,FOX,Matsuno



2013 年総括

伊東英一　Eiichi Ito

なんだかんだで二期ほど代表を務めさせていただきました。足掛け四年ですか。長いですね。
お陰さまでとても充実していた任期だったと思います。一期目はまっちゃんこと松野さんと、二期目はリバランさんこと戸川さんとのタッグでした。二人とも違った個性の持ち主で、良い刺激を受けました。まずは、こんな我侭な代表にお付き合いいただき、ありがとうございました。
執行部のみなさんにも厚く御礼申し上げます。ご協力のお陰で知名度は上がりましたし、毎年の GUTS も良いものになりました。上出来です。

ここからなんだと思います。おこがましいですが、つまり「天狼星」や「伊東」といったお決まりの人間が旗振りしているうちは、QJ の一人歩きは期待できません。俺たちは QJ を軌道に乗せるまでのブースターの役割。軌道に乗ったら切り離して、あとはさらに活動を拡充していただきたい…そう思います。もちろん縁の下からのサポートは惜しみませんし、今後もみなさんと一緒に QJ を盛り上げていきます。そうだなぁ…いろんなところから“アテ”にされるクラブにしたいですね。それには多岐に亘った知識やワザをクラブとして持つことです。精進、精進。これしかない。
まぁスッタモンダもありましたが、総じて“代表”としてやってきたことには満足してます。個人的にも大きな収穫がだいぶありました。このようなチャンスを与えてくれた初代代表の田中さんに敬意を表するとともに、ご協力いただいたみなさんに改めて厚く厚く暑苦しく御礼申し上げます(笑)。どうもありがとうございました！また、遊びましょ。

HTTP://WWW.QAJAQ.JP/